

第26回 芦原科学賞大賞受賞者インタビュー

～「信頼に技術で応える」ことでお客様とともに繁栄する会社を目指して～

大津理事長が株式会社石垣を訪問

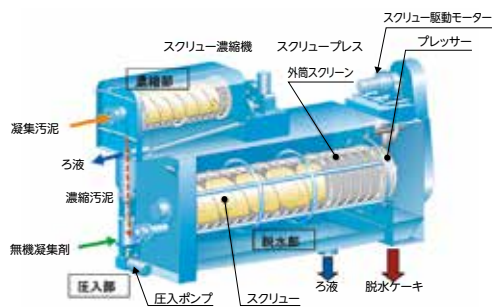
「第26回 芦原科学賞」で大賞を受賞(テーマ:下水処理分野において難脱水性汚泥や低濃度汚泥に対する高性能化と処理の大容量化や安定化を可能とする汚泥脱水機「ハイブリッド型圧入式スクリープレス脱水機 (ISGKV型)」の開発)された株式会社石垣の山下取締役、片山取締役および三野技術本部長を訪ね、(公財)かがわ産業支援財団大津理事長が、開発のご苦労やこれからの事業展望、抱負についてお聞きしました。

訪問した株式会社石垣(坂出市江尻町)は、「信頼に技術で応える」という企業理念のもと、水インフラと産業を支えるプラントエンジニアリングメーカーとして、脱水機、ろ過機、ポンプなど「水」を守り支える製品において、常に新技術の開発に取り組み、お客様へ提供することで、環境保全を通じて社会に貢献している会社です。

第26回 芦原科学賞贈呈式



芦原科学賞大賞贈呈式の受賞者記念写真
(左から 推薦者代理 藤岡課長、受賞者 山下取締役、犬塚部長、玉内氏)



ハイブリッド型汚泥脱水機の構造



ハイブリッド型圧入式
スクリープレス脱水機 (ISGKV型)

■芦原科学大賞の受賞

理事長: この度は、芦原科学大賞受賞、誠におめでとうございます。まず、受賞されたお気持ちをお聞かせください。

山下取締役: 芦原科学大賞は、科学技術分野における県内最高の栄誉と捉えており、今回の受賞を大変嬉しく思っています。また、取引先や協力会社の方々からお祝いのお声をかけて頂き、お花も頂戴するなど反響が大きく、大変有難く思っています。



大津理事長



受賞者 山下取締役

片山取締役: スクリュープレス脱水機については、2000年頃から新型機の開発をスタートし、これまで弛まず開発を進めてきました。今回の受賞は、こうした努力が認められたものと考えており、非常に感慨深いものがあります。

三野技術本部長: 技術の実施部門として、装置の開発・販売を長年続けてきました。当社で開発したものをこうして評価して頂いたことは、今後の開発において、大変励みになると思っています。



受賞者 片山取締役



受賞者 三野技術本部長

■プロジェクト立ち上げの経緯と成果

理事長：今回の技術開発に当たっては、どのような方針で取り組まれたのでしょうか。

山下取締役：創業以来、他社には無い新しい技術を世の中に出し続けないと会社の発展は無いというポリシーのもと、技術開発を一途に進めてきました。世の中の変化を先取りする位の気持ちで新しいテーマを見つけて開発していこうというのが、社是となっており、テーマが決まれば、経営資源である人、モノ、金を惜しまず出すこととしています。開発に失敗はつきものですが、困難に出会って挫折そうになっても、オーナーが常に励ましてくれましたので、我々としては安心して、新しい技術を追求することができました。

理事長：今回の開発で、どのような苦労があったのか、お聞かせください。

山下取締役：今回開発したハイブリッド型脱水機は、装置の上部に濃縮部を、下部に脱水部を配置した構成としています。これは濃縮部で前濃縮し、それを脱水部に入れば、さらに効率的に脱水できるだろうという発想からです。ところが実際には、なかなかうまくいかず、テスト機を改良しては実験・結果分析というトライアンドエラーを何度も繰り返し、最終的に性能面・コスト面で満足がいく製品とするまでに1年位掛かりました。

片山取締役：従来の製品では汚泥性状が変わると処理量も変わっていたのですが、お客様から汚泥性状に拘らず一定量の汚泥を高効率で処理したいという要望があり、それを可能にする開発が非常に難しかったところでした。

理事長：今回の開発製品は、従来品に比べてどのような性能アップが図れましたか。

三野技術本部長：今回の製品では、脱水処理後の汚泥の含水率を下げることができ、また、時間当たりの処理量を上げることができました。これにより、汚泥の処分費を安くすることや、運転時間の短縮により省エネに繋げることができました。

山下取締役：具体的な話で言えば、例えば脱水した汚泥をセメント会社に持って行き、お金を払って受け取ってもらうのですが、その水分量が減れば、ボリュームも減りますから、処分費が少なくて済みます。また、大きな処理場であれば、焼却炉で汚泥を燃やしますが、その際、補助燃料として油やガスを使います。ここで汚泥の水分が減れば、当然、必要な補助燃料も減りますから、維持管理コストが安くなります。この汚泥の処分コストは案外高く、これを下げるとトータルコストの削減に大きく効果があるところが、お客様に受け入れられたところです。

理事長：さらに会社が発展するために、今後どのような開発に取り組んでいきたいと思っているのでしょうか。

山下取締役：お客様のニーズはどんどん新しくなっており、我々も次々と新しい技術を開発する必要があると思っています。特に水環境インフラの分野では、まずは省エネあるいは創エネにならないか、そして維持管理コストが安くならないかと言うことが求められてきています。これらに係る技術ネタを見出し、他社とは違う我々にしかできない、お客様の信頼に応えられる技術を提供していくことが使命だと思って取り組んでいます。

■仕事のやりがいと喜び

理事長：仕事を通して、喜びや感動、誇りを感じるのはどのような時でしょうか。

山下取締役：製品を納入あるいはサービスを提供した際、お客様から「石垣さんは期待通りの会社だった。」と言って頂くのが、我々の一番の喜びです。

片山取締役：製品を納めた際に「この製品を採用して良かった。」と言って頂いた時や、様々な発表の場で多くの方々に聞いて頂いた時など、社外の方に評価をして頂いた時に大きな喜びを感じます。

三野技術本部長：インフラ設備を納める際には、製品納入とともに現地工事や試運転も行い引き渡しさせて頂いております。こうした一連の作業を経て完成した設備は記録や記憶に残るものであり、自信と誇りが持てることです。また、当社も創業60年が過ぎ、世代交代が進みつつありますが、若い世代が一生懸命に仕事をして設備を納めているのを見る時にも、その成長した姿に喜びを感じます。

■今後の抱負と事業展望について

理事長：今後の抱負や事業の展望についてお聞かせください。

山下取締役：「信頼に技術で応える」、これが創業者が作った企業理念であり、その実現のために「技術開発力」を中心に据えているところが当社の特徴です。「明るく楽しく仕事をしながら、お客様とともに繁栄していこう」と言うのが、我々の共通のコンセプトであり、お客様とともに様々な課題解決を図ることで、社会に貢献できればと思っています。

片山取締役：当社の主要製品である脱水機、ろ過機、ポンプを対象とした新しい技術の開発も大事ですが、それ以外の少し違うところで何か製品を作り出し、将来に向けて新しく市場を広げていくことが、今後の命題だと考えています。

三野技術本部長：これからの時代は、IoTなどの情報技術を取り入れて、柔軟な発想で開発を進めていくことも重要だと考えています。また、水環境インフラにおいては、創エネの発想も大事になってきていますので、脱水汚泥の有効利用も考えた、新しいシステムをお客様に提案できればと思っています。

理事長：本日は素晴らしいお話をありがとうございました。これからも是非、新しい技術の開発を進めて頂き、お客様とともに繁栄する会社として、益々発展し、ご活躍されることを大いに期待しております。



インタビューを終えて記念撮影
(左から 三野技術本部長、片山取締役、大津理事長、山下取締役)

インタビューを終えて

「信頼に技術で応える」ことを企業理念として、製品の開発・納入・アフターサービスなどの全ての面で、お客様からの信頼を得ることを第一に考え、新技術の開発に取り組む株式会社石垣の強みと成長性を感じ取ることができる、素晴らしいインタビューとなりました。